

第3回コンパクトなまちづくり大賞 個別事業部門 国土交通大臣賞

地区名：草薙駅周辺地区 受賞者：静岡市（静岡県）

受賞理由：草薙駅周辺地区は旧清水・静岡両市の市境部分に位置し、基盤整備により優良な住宅地と大学・美術館・図書館等が立地する文教地区となっている。駅南北の大規模民間開発を契機とし、都市再生整備計画事業により駅舎・南北自由通路・駅前広場等が整備され、安全な歩行空間が確保されるとともに、整備された公共空間の有効活用やまちの賑い・活力創出等を目指し、都市利便増進協定を活用した都市再生推進法人による大学生や地域を巻き込んだ賑わいづくりの活動が活発に展開していることが高く評価されました。

1. 地区の概要

JR草薙駅周辺地区は、駅の南側に、県立大学、県立美術館、県立中央図書館、駅の北側に、静岡サレジオ、常葉大学草薙キャンパス、県立工科短期大学校などの多くの教育施設が立地し、その周辺には市街地には閑静な住宅地が広がっています。さらに日本武尊をまつる草薙神社など、市内でも特に歴史と文化が調和した地区となっています。

当地区の核となるJR草薙駅は、平成28年9月から令和元年7月にかけてリニューアルされ、地元では、駅周辺の整備を「まちの全体的な魅力を向上させる機会」と捉えており、平成29年2月には、地域主体のエリアマネジメント団体「一般社団法人草薙カルテッド」を設立し、平成30年6月には県内初の都市再生推進法人の指定を受け、産・学・官・民が連携した魅力と活気にあふれる文教エリアとしての「草薙ブランド」を高めているところです。



草薙駅周辺地区の鳥観図



(一社)草薙カルテッドのみなさん



リニューアルされたJR草薙駅周辺の様子



2. 取組概要

当地区では、地区のみなさんで策定した「草薙駅周辺まちづくりビジョン」に基づき、40年後のまちを見据えたまちづくりの理念「次代につながる選ばれる街」を目指し、「緑と暮らす街」「文教の街」「安心・安全な街」「にぎわいのある街」をまちづくりのテーマに掲げています。ここでは、テーマに沿った主な取組みをご紹介します。

(1)緑化団体「草薙の輪プロジェクト」による花壇活動

地域の有志による緑化団体「草薙の輪プロジェクト」と様々な年代の地区のみなさんが連携し、月に1回、歩道の花壇やプランター等の手入れを行い、四季折々のおもてなしの緑づくりに取り組んでいます。



「草薙の輪プロジェクト」の活動の様子

(2)草薙まちづくりインターンシップ

草薙地区の取組みを地元の学生とともに推進し、まちづくりの体験機会を提供することにより、学生の就業意識の向上、草薙地区への興味や理解を促し、地域まちづくりの新たな人材の発掘や育成を目指しています。



令和2年度 草薙まちづくりインターンシップの様子



(3)「みちくさなぎ」「まちのお仕事図鑑」の発行

地元みなさんが協力して作り上げた観光ガイドマップ「みちくさなぎ」や地元小学生による「草薙まちのお仕事図鑑」づくりなど、様々な年代を巻き込んだ活動を展開しています



地元の力で作り上げた観光ガイドマップ

3. 発現した成果

草薙カルテッドが先導し、多くの地元のみなさんがまちづくり活動に携わる機会が増えており、自らの発案が実際にまちづくりに繋がる可能性を持つことが、地元のインセンティブとして芽生え始めています。実際に、令和2年度末に実施したまちづくりに関する市民アンケートのうち、「草薙のまちへの愛着度」が、32.0%（平成26年度）から54.2%までアップしています。



都市利便増進施設の活用(地元学生によるイベント等)

4. 今後の展開

都市再生整備計画（草薙駅周辺地区）も第3期を迎え、JR草薙駅の駅舎をはじめ、南北自由通路、駅へのアクセス道路等の「まちの拠点」となる基盤整備が完了し、駅周辺の利便性は大幅に向上しています。

一方で、この生まれ変わった「まちの拠点」のポテンシャルを草薙地区のまちづくりに還元する手法や、まちづくり活動の源となる新たなキーパーソンの発掘、担い手の育成、草薙カルテッドの体制強化などに課題が残されています。

現在、当地区では、都市利便増進協定による公共施設や道路占用緩和措置による空間の利活用、草薙カルテッドによる「学生×地域×企業」の民間交流スペースの運営、草薙まちづくりインターンシップの継続など、地区を育てる仕掛けを進めておりますが、全面的な課題解決にまでは至っていません。

このことから、これまで以上に産・学・官・民が連携し、様々な手段を駆使してまちづくり活動に取り組む必要があり、当地区が掲げるまちづくりの理念「次代につながる選ばれる街」の実現に向け、市は、今後も地区のみなさんの活動をバックアップしていきます。